部活動改革が必要な理由

・生徒のニーズは多様化しており、地域の多様な人材や専門的知見を活用し、地域全体で関係者が連携して支えることで、地域の特色を生かした、より豊かで刺激的な学びの機会を子供たちに提供することが可能となります。
・全国的に少子化の進行により生徒数が減少し、部活動を維持することが難しいケースが増えています。
・部活動は教育的使命感のもとで教員が支えている現状があります。しかし、学校における働き方改革の必要性が高まる中、学校のみに頼る指導体制は維持できなくなっています。

◆国がガイドラインを制定

令和７年 12 月

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/1405720_00025.htm

令和４年 12 月

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/1405720_00014.htm

① 生徒のニーズの多様化

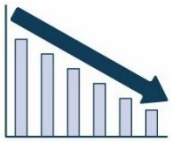
生徒のニーズの一例

□希望するスポーツをしたい
□自分の目的に合った活動をしたい
□専門的な指導を受けたい
□友人とともに運動したい
□スポーツはしたいがレクリエーションがいい
□小学校のころからの習い事を継続したい
□クラブチームで日本一を目指したい



② 少子化による生徒数の減少

学校単位での活動の限界



□平成の 30 年間で中学生の数が 40%減少
□チームを組めない部活動が多数存在
□できる種目が限定されている

③ 教員の大きな負担

教育活動の質低下

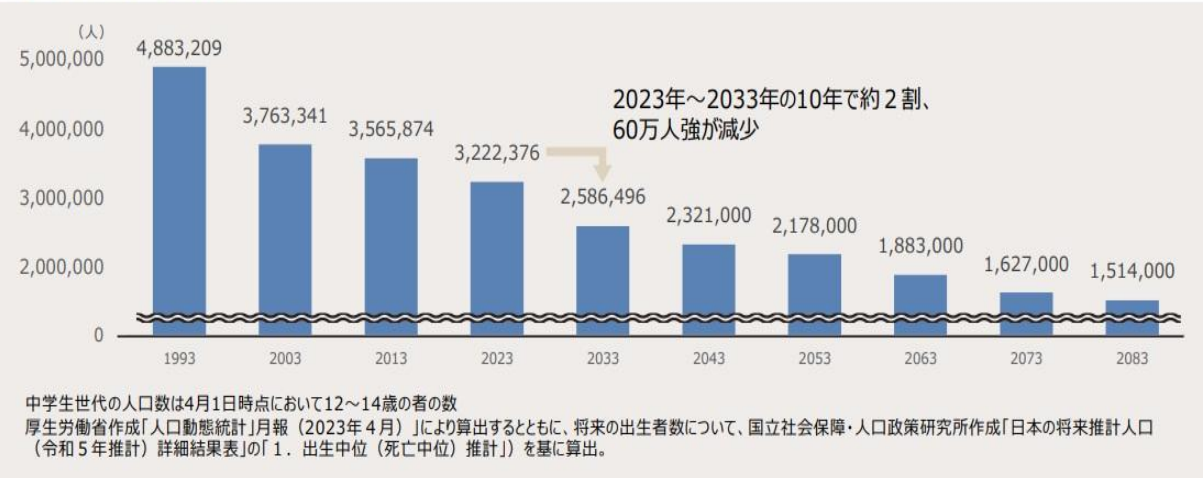
教員志願者の減少



□国際的に日本の教員勤務時間は非常に多い
□社会全体の働き方改革に推進
□できる種目が限定されている

② 少子化による生徒数の減少について

■ 中学生年代の人口予測



中学生世代の人口数は4月1日時点において12～14歳の者の数
厚生労働省作成「人口動態統計」月報（2023年４月）」により算出するとともに、将来の出生者数について、国立社会保障・人口政策研究所作成「日本の将来推計人口（令和５年推計）詳細結果表」の「１．出生中位（死亡中位）推計」）を基に算出。

■石川県の中学校卒業者数



■野々市市の中学校卒業者数



＊野々市市の中学校在籍者数は、国立や県立中学校、私立中学校、特別支援学校等への進学により 10%程度減少しています。年長～年少は参考数値です。

□ご自身が中学生の頃の生徒数はいかがでしたか

西暦	比較	生まれ年	年齢	中学生人口	過去 30 年比	増減率	
2026 年	今	2011 年	15 歳	3,060,031 人	-1,467,369 人	-32.4%	
2016 年	10 年前	2001 年	25 歳	3,406,029 人	-1,121,371 人	-24.8%	
2006 年	20 年前	1991 年	35 歳	3,601,527 人	-925,873 人	-20.5%	
1996 年	30 年前	1981 年	45 歳	4,527,400 人	0 人	0.0%	
1986 年	40 年前	1971 年	55 歳	6,105,749 人	1,578,349 人	34.9%	2 次ピーク
1962 年	64 年前	1947 年	79 歳	7,328,344 人	2,800,944 人	61.9%	1 次ピーク